

# 特別対談

東京都議会議員 **川松真一郎**さん  墨田区長 **山本 亨**さん

**墨田区は全国の政令市、県庁所在地を含め最も早く対象者への接種券発送を終了しました。**

## 「墨田モデル」成功と呼ばれる要因

**川松** 区長として、この墨田モデルと呼ばれるまでに成功した最大の要因は何だと思いますか？

**山本** まず区民を思い浮かべて、全てにおいて区民の皆さんに安心して頂く為にコロナ対策やワクチン接種体制作りをしっかりとしたこと。先手を取って、区役所としてチームワークよく動いてきたことですね。思い起こすと昨年4月10日にPCR検査センターを区役所のリバーサイドホールで、あの当時、思い切って開設をした成果が原点です。勿論、川松さんにも色々な形で支援して頂いているんですけど。

**川松** 医師会との連携も迅速かつ深いものでしたね。

**山本** これは墨田ならではの、墨田区医師会の皆さんが色々な協力ご理解をさせて頂いて、区民のために一緒になってこう汗をかいてくださっています。そして、検査センター開設とほぼ同じ時期に民間の検査会社を誘致できた事は区民の安心に繋がったと思っています。

## 一朝一夕で出来上がったものではない「墨田モデル」

**山本** そこまでの試行錯誤は、正直なところたくさんありました。これも川松さんと色々やった墨東病院クラスターみたいな危機的状況など、区民生活への影響を念頭に、再発させないようにと動いてきましたよね。

**川松** 検査結果をとにかく早く出す事を心がけて検査機械も導入し、今や変異株を見つける体制も確立しました。

**山本** インドで最初に確認された変異株「デルタ」も早く見つけられる体制を急ぎました。

**川松** そんな中で年末年始の拡大の波を迎えた頃、東京都福祉保健局や厚生労働省の情報収集や調整をしては、常に私は区長と電話していましたよね。

**山本** ここは、やっぱりチームワークと助け合い、支え合いみたいなのところがありました。

**川松** 年が明けて区長はすぐに区役所内の保健所職員の数を大きく増やしましたよね。

**山本** 体制整備を急ぎました。全体的に約80名ぐらいです。



## 墨田区と医師会との綿密な連携

**川松** 更に、年末年始に課題となったのが「転院調整」でした。例えば、墨東病院に高齢者施設クラスターから入院された方が施設に戻ろうとする場合、施設側から、本当に大丈夫ですかという声が出たんですよ。今まだ戻されるのは心配だと。そこで、区内の各病院にも回復期の方の転院受入をお願いしたのでした。入院待機者目詰まりの解消モデルとし全国から注目されましたが、これも行政としては当たり前の事を模索した結果ですよ。

**山本** これも日頃から墨東病院以外に区内に7つある東京指定二次救急医療機関の方々と綿密な連携があったからこそ、地域完結型病棟・病床を提案できました。回復期病床を整備してからは入院を必要とする方の入院待機がゼロになりました。

**川松** これは当時、山本区長の判断で、財源は墨田区独自でやると決めたのが、このモデルには都からの財政支援制度も後追いで出来上がってきました。

## ワクチン計画は半年前から

**川松** 一方で区長の下では、12月1日にワクチン供給体制の準備に着手しました。この早さが全てですね。

**山本** はい。ワクチン担当部長を設置したのが12月1日ですから、ほぼ6ヶ月経っているという状況です。

**川松** 当時、墨田区は「早すぎじゃないの」と揶揄されたものです。

**山本** 墨田区だったらどういふシミュレーションでいっていうことを12月段階から始めているということが一つの強みとなりましたよね。

**川松** そのワクチンは国から東京都、それから各自治体へ配分が決まっていく仕組みです。準備が万全だったから、最初から「大丈夫です。どんどん送って下さい。」と言えたからこそ今があります。

**山本** 大事なことはブレない。それから早めに我々は動いていたので、色々なシミュレーションができました。

## 議会の新しい形

**川松** 墨田モデルという点でいくと、区長と議会との関係もかなり良かったです。

**山本** 墨田区議会が、議会改革の真っ只中で通年議会として、1年間議会が開催されています。このおかげで色々な議論ができ、厳しい指摘もありました。

**川松** 更に、墨田区議会が当時の樋口議長、佐藤副議長を中心に政党ごとではなく議会として一致団結した行動を取った事も大きかったですよね。

**山本** 議会の知恵です。個別に要望を頂戴すると区議32人からもらう事になり、時間や職員の負担が増えます。議長、副議長を中心に要望をまとめていただいて、どこそこの政党ではなく「議会として」5回の要望を協議しました。今こうして墨田区が評価を頂けているのは、議会の皆さんのご協力も大きかったと思います。

**川松** 樋口議長が自民党さんどうですか？○○党さんどうですかって丁寧に聞いて、まとめて議会全体として区長に提案していくという体制は都議会も見習うべきだと考えています。

**山本** 当然、議会要望には反映されなかった少数意見もありますが、区長として、漏れのないよう日頃の情報収集や調査を抜き行っています。



—この対談では、コロナ対応だけでなく、墨田区の教育改革、産業振興、都有地活用(旧日本警察署跡地、旧墨田川高校校舎跡地など)はじめ、2人の墨田区への熱い思いが語られました。強力なタッグによって、「墨田モデル」は先手先手で推進していきます。

## 川松さんの確かな実績に期待します。



舌鋒鋭く都政をただす、川松真一郎さんが引き続き活躍できるよう、皆さんのご指導をお願いします。

衆議院議員 **松島みどり**